

SANSAMP™ RBI

TECH 21・NYC



USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用の前にならず内容をよくお読みください。SansAmp RBI は SansAmp Bass Driver DI のラックマウント版です。通常、複雑で大量の機材を必要とするメガオーバードライブのトーンをはじめ、伝統的でモダンなベースアンプシステムのサウンドスペクトラム全体を網羅しています。Tech 21 独自の 100%アナログ回路は、Fender® から SVT® まで、そして King Crimson から King's X まで幅広いスタイルを提供します。各コントロールを使用して、オリジナルサウンドを簡単に作成することもできます。スタジオやライブ現場を想定し、レコーダーや P.A. のミキサーへ直接入力可能。もちろんパワーアンプ、パワードモニター、ベースアンプに直接接続することも可能です。

オリジナルである Bass Driver DI との最大の違いとして以下の機能を搭載しました。

MID コントロールを搭載。

P.A システムに対してアンプの出力を最適化するための XLR アウト用の独立したレベルコントロール。

ループの直列 / 並列を設定可能なミックス 50/50 スイッチをエフェクトループに搭載。

レベル調整可能な背面の 1/4 " 入力と XLR 出力

ドライ信号を別のチャンネルに送るための、バッファード XLR パラレル出力

フットスイッチ入力

もう一台の SansAmp RBI または SansAmp RPM を切り替えるためのフットスイッチ出力。

2 使用上の注意



警告

以下の記載次項に反して誤った取扱いをすると、人体に重大な影響（死亡、重傷等）が発生する可能性がございます。誤った取扱いは、火災・感電の原因となりますので、くれぐれも行わないで下さい。

電源の電圧について



表示された電圧（AC100V）以外の電圧で使用しないで下さい。火災、感電の原因となります。

分解及び改造について



本機を分解したり改造を行わないで下さい。故障、火災、感電の原因となります。お客様自身で修理・交換が可能な部品は内部にはございませんので修理はお買い求めの販売店へご依頼下さい。

温度について



本機は正常動作時でも、真空管、放熱板、及び各種トランスの表面は高温になります。本機使用中と電源を落としてから 30 分以内はやけどの恐れがありますので、開口部よりキャビネットの中に手を入れないで下さい。

液体、異物について



本機、もしくはキャビネットの中に付属品以外の機器、異物（可燃性のもの、硬貨、針金などの通電性のもの）や、液体（水やジュースなど）を絶対に入れたり、こぼしたりしないで下さい。またこの機器の上に飲み物を置くこともやめて下さい。万一、異物が入ったり、液体がこぼれた際は直ちに電源スイッチを切り、電源コード等を取り外し、お買い上げの販売店へ修理を依頼して下さい。

電源ケーブルについて



電源ケーブルを無理に曲げたり、上に重い物を載せたりしないで下さい。電源コードやプラグの破損につながり、火災感電の原因となります。

雷について



雷が発生し、雷鳴が聞こえるときは直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、使用を中止して下さい。直接の落雷でなくても、近距離で落雷があった際はコンセントに高電圧が発生し感電する危険があります。

音量について



本機を単独で、もしくはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快なほどの音量で長時間使用しないで下さい。万一聴力低下や耳鳴りを感じたら専門医へ相談して下さい。

開口部及びファンについて



本機のすべての開口部をカーテンや幕、その他物体で塞がないでください。正常に放熱ができなくなり、異常発熱、発火、火災の原因と成ります。また、放熱ファンに、紐、電線、針金、弦などを近づけないでください。



注意

以下の記載事項に反して誤った取扱いをすると、人体及び器物に重大な影響（傷害、器物破損等）が発生する可能性がございます。誤った取扱いは、火災・感電・製品破損の原因となりますので、くれぐれも行わないで下さい。

電源ケーブル及び電源プラグについて



- 電源ケーブルを抜き差しする際は必ず、電源プラグを持って行って下さい。
- 濡れた手で電源プラグに触れないで下さい。感電の恐れがあります。
- 長時間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いて下さい。

ヒューズ交換について



※外側にヒューズホルダーが取り付けられている機種において、ヒューズが切れた場合、ご自身で交換せずにお買い上げの販売店へ修理を依頼して下さい。ヒューズが切れた原因は内部の故障に起因しますので修理を行うことなく再び電源を入れるのは火災の原因となり大変危険です。

転倒注意



カート、スタンド、三脚、ブラケットは、本製品専用またはメーカー推奨品のみを御使用下さい。本製品をカートに乗せて運ぶ際は、転倒による事故に充分注意して下さい。

フロントパネル



本機のコントロールは、カットするだけの従来のパッシブコントロールとは違い、12時を中心として、カットとブーストを行うアクティブコントロールで設計されています。これにより、コントロールの多くの機能が2倍になり、はるかに広い範囲を調節できるようになり、より多様なコントロールが得られます。最大の結果を得るために、必ずしもすべてを最大に設定する必要はありません。コントロールの相互関係に慣れると、簡単にあなた自身の音をカスタマイズすることができるでしょう。

INPUT JACK:

1/4" 入力は 1MΩ、出荷時は -20dB インストルメントレベルに設定されています。前面の入力ジャックに差し込むと、背面パネルのジャック (INPUT 2) が無効になります。本機をラックまたはパッチベイシステムに組み込んだ場合、通常の入力ソースはリアパネルのジャックに差し込み、システム内の他の機器を迂回して直接接続したい場合は、この入力を使用する方法が可能です。

DRIVE:

ゲインとオーバードライブの全体的な量を調整します。

PRESENCE:

アップパーハーモニクスやアタックを強調する際に使用します。クリーンでスムーズな高域のサウンドを設定したい場合は、このコントロールを低くして下さい。

BLEND:

真空管シミュレーション回路と音源の信号 (ドライ信号) のブレンドを決定します。通常、最大 (100% SansAmp) に設定します。ただし、ピエゾピックアップを装備したアコースティック楽器などでの使用の際には、アコースティックな響きを残すためにドライ信号を混ぜることでバランスを取ってください。Blend が最小の際、真空管シミュレーション回路はバイパスされますが Bass、Treble、Level の各コントロールはアクティブのままです。

BASS & MID & TREBLE:

カットするだけのパッシブコントロールとは異なり、本機のアクティブトーンコントロールは、ユニティゲイン (12時) から ±12dB カットまたはブーストします。BASS は 80Hz、MID は 1kHz、TREBLE は 3.2kHz を調節します。

XLR:

XLR 出力の音量レベルを独立して調節します。

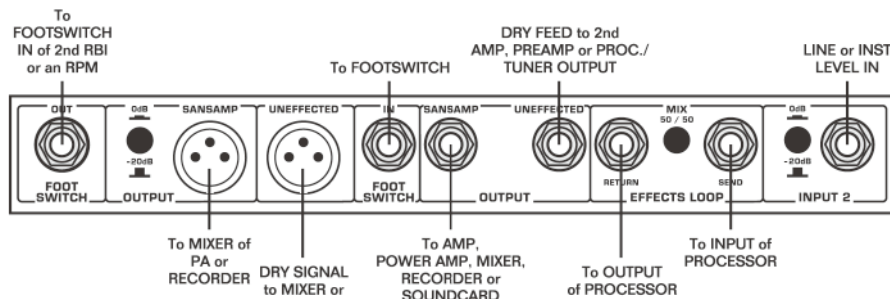
LEVEL:

1/4" モノラル標準フォンの出力レベルを調節します。

ACTIVE:

本機の回路を動作させます。(●) で ON。(■) で OFF (バイパス) になります。

リアパネル



INPUT 2:

INPUT 2 に接続すると入力回路をそこに供給される信号レベルと一致させることができ、それによって最良の S/N 比と歪みを抑えることができます。

ラックおよびパッチベイで本機の前には他のシグナルプロセッサやマルチトラックレコーダを使用している場合に最適です。フロントパネルの INPUT に接続すると、INPUT 2 は無効化されます。また、アクティブベースの出力など、非常に高出力な信号を差し込むときは、入力レベルセクタスイッチを -20dB の位置に設定してください。

INPUT LEVEL セクタスイッチ:

さまざまな信号レベルの機器を接続するための入力レベルセクタスイッチです。高出力な機器を入力する際は -20dB PAD を設定できます。

0dB (●): INPUT A,B のインピーダンスはフロントパネルの入力と同じです。まずはこの設定からお試してください。

-20dB (■): -20dB PAD を設定します。ラインレベルの信号を入力する際に設定します。

EFFECTLOOP SEND RETURN:

DRIVE セクションのトーンコントロールとレベルコントロールの間に外部エフェクトを接続することが出来ます。外部エフェクトの INPUT を Send に接続し、外部エフェクトを RETURN に接続してください。エフェクトループに何も接続されていない場合、信号は Drive Output ジャック、SansAmp 1/4" と XLR Output が全て同じ信号を出力します。

MIX50/50 スイッチ:

OFF (■) の場合、SEND は信号の 100% をエフェクトプロセッサを通してルーティングします。50/50 スイッチを ON (●) にすると、信号の 50% がエフェクトプロセッサを通して、残りの 50% は直接ドライブセクションの SansAmp 1/4" と XLR アウトポートから出力されます。ON のときは、エフェクトプロセッサのミックスコントロールを 100% wet に設定する必要があります。相対的なウェット / ドライミックスは、エフェクトプロセッサのアウトプットレベルを増減することでコントロールできます。音が細すぎる場合や逆位相による相殺が発生した場合、100% ウェット信号にならない場合があります。その際は、Mix 50/50 スイッチをオフにすることをお勧めします。

5 ユニバーサルアウトプットセクション

本機出力セクションは、あらゆる機器と互換性があるように設計されています。更に、オンボードのダイレクトボックスを装備しています。トランスを使用せずに設計されているため、録音またはインタフェース用に、極めて高品質のバランスドローインピーダンス信号を出力します。真空管アンプ特有の暖かく豊かな自然の高調波と甘いオーバードライブ特性だけでなく、スピーカーエミュレーションは複数のマイクでマイキングしたようなスムーズなサウンドを演出。ライブでは、DI 出力を直接 PA ミキサーに接続可能です。

UNEFFECTED OUTPUT:

1/4" モノラルフォン出力端子。ドライシグナルのバッファード信号を出力します。入力から直接外部のアンプ、プリアンプ、エフェクトチェーンに直接信号を送りたい場合に使用します。

SANSAMP OUTPUT:

1/4" モノラルフォン出力端子。対応するセクションからの信号を出力します。ドライブセクションのエフェクトループにエフェクトを接続した場合そのエフェクトも含まれます。

LEVEL セクタスイッチ:

0dB (●): ユニティゲイン出力。まずはこの設定からお試してください。

-20dB (■): -20dB PAD を設定します。

SANSAMP XLR DIRECT OUTPUT:

XLR 出力端子。対応するセクションからの信号を出力します。ドライブセクションのエフェクトループにエフェクトを接続した場合そのエフェクトも含まれます。

LEVEL セクタスイッチ:

0dB (●): ユニティゲイン出力。まずはこの設定からお試してください。

-20dB (■): -20dB PAD を設定します。

GROUND LIFT スイッチ (≡):

このスイッチを ON にする (■) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。また、このスイッチを OFF にする (●) とグラウンドが接続されます。

UNEFFECTED XLR OUTPUT:

ドライシグナル (楽器の直接信号) をバッファード出力します。

FOOTSWITCH:

外部フットスイッチを入力します。本機ともう一台の SansAmp RBI (または SansAmp RPM) を切り替える設定にするには、本機の FOOTSWITCH OUT からもう一台の SansAmp RBI (または SansAmp RPM) の FOOTSWITCH IN に接続します。オーディオ信号経路は、ベース本体を最初の SansAmp RBI の INPUT に接続してください。1/4 インチ SansAmp Out を 2 台目のユニットの INPUT に接続します。2 番目の SansAmp RBI の 1/4 インチ OUT をメインのオーディオ OUT として使用してください。

6 スペック

入力インピーダンス - INPUT 1	1M Ω
入力インピーダンス - INPUT 2	1M Ω
出力インピーダンス - 1/4" SansAmp	最小 1k Ω
出力インピーダンス - XLR	最小 600 Ω
入力レベル - フロント INPUT 1	最大 1V RMS
入力レベル - INPUT 2	1V RMS /-20dB PAD 時最大 10V
出力レベル - XLR	0dB / -20dB 切替可能
EFFECT LOOP - SEND	最小 1k Ω -20dB
EFFECT LOOP - RETURN	最小 100k Ω -20dB
周波数特性	10Hz-20kHz
最大消費電力	5W
電源	100 V/50-60 Hz
サイズ	430×40×130 mm
重量	約 2kg